



#### 「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Aim your hopes towards the stars in your early days

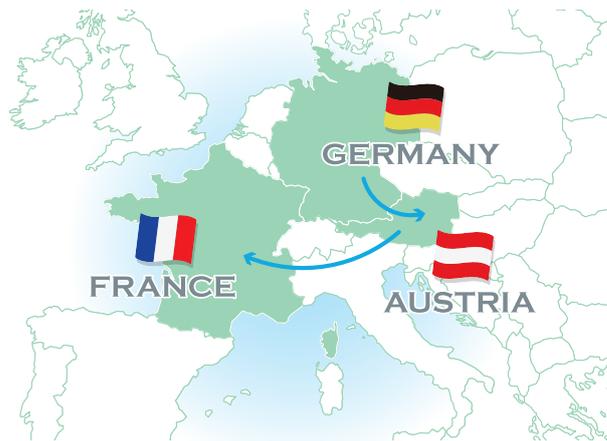
TOP\*NEWS

## 第41回 附属高校生のための ヨーロッパ研修旅行(12/19~12/28)

今年度のヨーロッパ研修旅行では、訪問国を一カ国減らし、その分、一つ一つの国での学びをより深めるプログラムを実施しました。本校からは14名の生徒が参加し、高校3年生の中には班長や団長として研修全体を支える役割を担った生徒も多く見られました。言語や文化の違いに向き合いながら、仲間とともに学びを重ねた経験は、生徒一人ひとりにとって大きな成長の機会となりました。



エッフェル塔を背にして(A団)



ノイシュヴァンシュタイン城にて(B団)

### ヨーロッパ研修旅行を終えて

3年1組 伊藤 里桜

ヨーロッパ研修旅行は、自分の価値観や考え方が大きく広がった期間でした。言語や文化が異なる地で初めて出会った人たちと過ごす約一週間は、初めは不安や緊張もありました。しかし、共に過ごす時間が増えるにつれて多くの附属校生と交流し、仲が深まっていくことを実感し、楽しい時間を過ごすことができました。違いを受け入れ、楽しむことが自分自身の成長につながるのだと、改めて学ぶことができました。ヨーロッパ各地を訪れた中で、特に印象に残っている場所はルーブル美術館です。バスの車窓から初めて外観を目にした時、その圧倒的なスケールの大きさに衝撃を受けました。その他にも、数々の教会や本場のクリスマスマーケット、食事などの文化や雰囲気を実際に目で見て感じられたことは、なかなか体験できない貴重な経験でした。また、同じ附属校生たちと異国の地で考えたことや感じたことを共有できたことも、非常に貴重な経験になりました。この研修で得た学びを、今後の人生に活かしていきたいです。

# 部・同好会活動報告

高校  
吹奏楽部

## 第53回マーチングバンド全国大会 銀賞受賞

### マーチングバンド全国大会初出場

3年1組 井下 すみれ 3年2組 仲田 早希

私たち吹奏楽部は、12月7日にさいたまスーパーアリーナで行われたマーチングバンド全国大会に高輪台史上初出場をし、銀賞を受賞することができました。誰も経験をしたことのない舞台を目指すことは、自分たちにとって大きな挑戦であり、何度も壁にぶつかることがありましたが、そのたびにたくさんの方々に支えていただいたおかげで、自分たちの満足のいく素敵なShowを作り上げることができました。この大会を経験したことで、改めて周りの方々への感謝の大切さを知ることができ、言葉、行動で感謝を伝える意識が高まりました。ここまでの伝統を作り上げてくださった先輩方、自分たちの挑戦を支え、サポートして下さる先生方、日頃から近くで支えてくださるすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。私たちの代での大会はこれで最後になりますが、さらなる高みを目指し、また大きな目標に向けて挑戦を続ける吹奏楽部を今後ともよろしくお祈りします。本当にありがとうございました。



## ありし昔を今偲ぶ 赤穂の浪士眠るところ

### 「第36回忠臣蔵赤穂義士行列」パレードに参加

(主催：財界二世学院)

昨年12月14日、1年生6名と2年生2名が義士たちの装束を身にまとい、歌舞伎座(中央区銀座4丁目)から泉岳寺までの道のりを練り歩き、義士祭を盛り上げました。当日はあいにくの天候でしたが、高輪ゲートウェイシティが開業したということもあってか、沿道には多くの観光客が集まっていました。



赤穂義士の墓参を終えて(財界二世学院ビルにて)

### 歴史の重み

1年10組 吉永 謙

僕たちは12月14日に行われた赤穂義士行列に参加しました。冬の冷たい空気の中にも特別な緊張感がありました。僕は光栄なことに大石内蔵助の息子・主税(ちから)という重要な役をやらせてもらって、道行く人から何度も役名を呼ばれました。また、多くの方が自分に対して頭を下げたり、自分たちの写真を撮ったりしているのを見ると、歴史の重みを背負っているような気持ちになりました。

泉岳寺の境内には朝早くからたくさんの方が集まっていて、静かに手を合わせている様子を見ると、歴史上の出来事が今も大切に思われていることを実感しました。実際にその場に立ったことで、教科書で読むだけではわからない歴史の深さなど、普段の生活ではめったに味わえない経験ができました。

## 高輪安全・安心 ウィンターフェスティバル2025

12月20日、高輪地域における生活安全・防犯意識の啓発を目的として、高輪警察署主催の「高輪安全・安心 ウィンターフェスティバル2025」が開催されました。清家港区長をはじめ、警察関係者、防犯協会、交通安全協会の皆様ご出席のもと、本校アリーナで実施されました。

交通安全・防犯に関する講話の後、警視庁音楽隊と本校吹奏楽部による合同演奏が行われました。警視庁音楽隊には本校吹奏楽部の卒業生が所属されており、そのご縁から今回の合同演奏が実現しました。プロの楽団による演奏を聴くだけでなく、合同演奏に参加できたことは、吹奏楽部の生徒たちにとって貴重で素晴らしい経験となりました。

また、本校吹奏楽部と美術部が高輪地域の交通安全・防犯事業に協力したことに対し、感謝状をいただきました。



## 漢検2級に1名が合格!

11月7日に実施された漢検(日本漢字能力検定)において、1年8組の宮下遥斗君が初めての挑戦で2級に合格しました。2級の合格率は毎回30パーセント程度と非常に低く、すべての常用漢字(2,136字)の読み書きなどが出題されますが、宮下君は「一発合格」に輝きました。なお、他の級の合格者数(および合格率)は以下のとおりです。

- 準2級(高校在学程度) ..... 4名 (33.3%)
- 3級(中学校卒業程度) ..... 11名 (57.9%)
- 4級(中学校在学程度) ..... 4名 (22.2%)
- 5級(小学校6年生修了程度) ..... 3名 (100%)

※来年度から受験料が改定されます。2級は4,200円、準2級~4級は3,200円、5級は2,700円と、それぞれ700円の増額となります。ご注意ください。



# ダンス部 第44回障害者週間記念事業〈主催：港区ほか〉 ～ともに生きるみんなの集い～に参加

12月6日(土)に港区立男女平等参画センター リーブラホールにて開催され、本校の中・高ダンス部が参加しました。



手話を取り入れた作品で一体感

## ダンスを通じた交流

ダンス部部长 2年9組 丸林 由依

私たち中高ダンス部は、12月6日に港区立男女平等参画センターにて行われたイベントに出演させていただきました。イベントでは盲導犬の体験学習をさせていただき、盲導犬は目の不自由な方の命や生活を支える存在だと知ることができました。また、ダンスでは障がいのある方々と一緒に踊ることができ、手や体の動きで交流し、とても温かい時間となりました。これからもダンスを通して皆さんに笑顔と幸せを届けられるよう、日々応援し、くださる方々への感謝の気持ちを忘れず、練習に励んでまいります。

# 軽音楽部 港区主催 「港響祭 ～冬の出会いに春を咲かせて～」に参加

12月20日(土)、高輪区民センター 区民ホールで行われた、港区主催「港響祭 ～冬の出会いに春を咲かせて～」に参加しました。これは、本年度初めて開催されたバンドフェスティバルで、港区にある5校の私学軽音楽部から合計20バンドが出演したほか、運営スタッフも各校の部員が協力して担当しました。

軽音楽部部长 2年1組 恩田 小都子

今回のイベントでは、演奏だけでなく、音響調節や照明、受付などのライブ運営も生徒同士が協力して行いました。これらの活動を通して、普段は関わりのない高校の軽音楽部員とのコミュニティを築くことができたり、学校にはない機材を使用して学びを深めることができたりと、大きく成長するきっかけになったと思います。またレベルの高いパフォーマンスを間近で見て、演奏技術の向上やライブ運営について多くを学びました。当日は雨だったのにも関わらず、保護者の方や友人が多く足を運んでくれて、会場がとても盛り上がり嬉しかったです。来年、再来年もこのイベントが続いていくことを願っています。この経験を活かして、部活動内でのライブはもちろん、来年度の建学祭や合同ライブにつなげていきたいです。



# 吹奏楽部 定期演奏会

## 学びと成長の3年間

中等部吹奏楽部副部长 3年B組 三輪田 翔真

中等部吹奏楽部に所属した3年間で、いくつか感じたことがあります。一つは、自分自身とても成長できたことです。演奏面だけでなく、上下関係や責任感など、社会に出たら当たり前にはできないことを、たくさん学ぶことができました。もう一つは、気持ちの変化です。以前は先生や先輩たちに注意されるたびに、「もう辞めてしまいたい」と思ったことが何度もあるのですが、最後の定期演奏会が終わってしまった今、そんな経験でさえ、もう一度味わいたいと思っています。それほど名残惜しい3年間となりました。

高校では、これまで経験したことや学んだことを最大限活かして、何事にも意欲的に取り組んでいきたいです。



## 集大成と感謝

高校吹奏楽部部长 3年2組 仲田 早希

私たち吹奏楽部は、第36回定期演奏会を1月4日・6日に開催しました。ホールいっぱいのお客様に見守っていただく中、3年生は引退という大切な節目を迎えることができました。この演奏会が、これまで支えてくださったすべての方々へ、音楽を通して感謝の気持ちを伝える場になっていたら幸いです。3年間、大好きな音楽を大切な仲間と恵まれた環境で続けられたのは、皆様の温かい支えがあったからこそです。3年生は今後、大学や社会に出てからも部活動を通して学んだ感謝の心と謙虚な姿勢を大切にしていきたいです。本当にありがとうございました。これからも吹奏楽部への変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。



# 2025年度学校運営方針

## 実践目標

### 「教科の学習」だけでなく、「教科外活動」にも積極的に取り組ませることによって、より豊かな人間性を育てる

本校は、毎年高校卒業生の約85%が東海大学の付属推薦制度を利用して進学しています。受験勉強をする必要がない付属高校だからこそ、教科指導を通して、単に知識や技能を教えるだけでなく、生徒一人ひとりに大学での専門教育を受けるために必要な基礎学力を養成することを目標としています。また、この方針は、授業以外のさまざまな活動を通して、生徒が人間として大きく成長する助けにもなっています。

中等部では、1年生で貨幣博物館見学や落語鑑賞、2年生で日本科学未来館・科学技術館の見学、3年生で国立科学博物館見学、歌舞伎鑑賞、「ライオンキング」鑑賞の他、合唱祭、スポーツ大会等を実施しています。また、企業の協力を得てキャリア教育を行い、生徒の仕事に対する関心や意識を高め、職業観を育てる取り組みも行っていきます。

高校では、1年生で各クラス2回、茶道の先生をお迎えし、茶道の作法を通して礼儀作法を学びます。2年生では、港区選挙管理委員会の協力のもと主権者教育を実施し、18歳成人を見据えて社会参画する態度を養っています。

さらに、全体で実施する体育祭、建学祭、剛健旅行、研修旅行、スポーツ大会(学年別)など、学校行事を通して、協力や責任感を学びます。これらの行事では、目標達成のために仲間と協力し、困難を乗り越える経験が求められます。リーダー役を担う生徒や仲間を支える生徒など、役割を果たす中で、互いに助け合いながら成功を目指す過程は、社会生活に必要な要素を多く含んでいます。

教科外活動の中で大きな役割を果たしているのは部活動です。本校では、多くの生徒が部・同好会活動に参加し、積極的に活動しています。活動を通して、技量の向上だけでなく、目標に向かって努力する姿勢や諦めない心を学びます。異なる学年や考え方を持つ仲間と協力し、同じ目標に向かって挑戦する経験は、達成感や充実感をもたらす、豊かな人間性を育てます。これまで多くの部活動が関東大会や全国大会で成果を挙げており、その過程で培われる協調性や責任感は、社会で生きる力の基盤となります。

学生時代に、世の中の多くのものを見たり、経験したりすることを通して、社会で生活していくための基礎を学ぶことはとても大切です。

東海大学は「明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材の育成を通して、調和の取れた文明社会を建設する」という使命を掲げ、単に知識や技術を教えるだけでなく、人間、社会、歴史、世界、文明などについて、学生一人ひとりが「自らの思想を培う」ことのできる教育を実践しています。

東海大学の付属校である本校では、「教科の学習」と「教科外活動」を両輪としたさまざまな教育活動を通して、将来生きていく上で指針となる、しっかりとした「ものの考え方」を身につけられるよう、生徒たちをサポートしていきたいと考えています。



中1芸術鑑賞



中等部合唱祭



高校体育祭



建学祭

# SSH活動報告

12月13日に茨城大学で行われた茨城県立緑岡高校主催の「英語による科学研究発表会」に、3年生1名が参加しました。12月13～21日に3年生2名が、本校と国際交流に関するMOU(合意書)を結ぶタイ・プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール・トラン校のあるタイ王国に渡り、「TJ-SSF2025(Thailand-Japan Student Science Fair)」に参加しました。12月21日に工学院大学で行われた「東京都内SSH指定校合同発表会」に3年生が参加しました。また、12月21～25日に2年生2名が立命館高校主催の「SSHカンボジア海外研修」に参加しカンボジアに渡りました。



英語での発表の様子

## 英語による科学研究発表会

3年10組 犬塚 湘平

先日、私は茨城大学水戸キャンパスで行われた、英語による科学研究発表会に出展し、2分間のショートプレゼンテーション、ポスター発表に参加しました。参加校の中には想像もつかないほどの素晴らしい発表が多く、とても緊張しました。しかし、2年間にわたって取り組んできた自分の研究に自信を持つことで、今までで一番良い発表を行うことができました。ポスター発表では、二組の他校の生徒に「英語が上手ですね」と声をかけてもらい、3歳から英語を学んできた努力は決して無駄ではなかったのだと実感しました。また、他校の生徒の発表を聞いたり、質問をたくさんしたりすることで、英語の新しい表現方法に触れることができ、新鮮な経験になりました。自分の研究はこれが一区切りですが、この経験を今後の英語力の向上に活かしていきたいと考えています。

## 忘れられない思い出

3年10組 八木 綾華

今回、TJ-SSFという交流をきっかけに、9日間タイのバンコクとトランで過ごしました。この交流を通して特に心に残ったのは、タイの人々の温かさです。これまでタイを訪れたことがありませんでしたが、現地では一人ひとりが笑顔で迎えてくださり、思いやりにあふれた国だと感じました。誰もが自然に笑顔で接していることが印象的で、その理由を現地の先生にうかがうと、「笑顔を文化として大切に、自分の強みとしている」と教えていただきました。TJ-SSFプロジェクトでは、日本各地・タイ各地から集まった約450人の参加者と、国や言語の違いを超えて気持ちを伝え合うことができ、この9日間は、学びと出会いにあふれた、かけがえのない時間となりました。このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝するとともに、支えてくださった関係者の皆様、先生方、そして共に過ごした仲間たちにより感謝しています。



空港での1枚



文化体験の様子

## 当たり前が変わった9日間

3年10組 野邊 音希

私はタイで行われたTJ-SSFに参加しました。他にも、学校訪問や文化体験など、さまざまな活動に参加しました。その中で、日本とは異なる価値観や生活習慣に触れ、自分の視野の狭さに気づきました。日本では当たり前だと感じていたことが、タイでは当たり前ではない場面も多くあり、今までの生活では考えなかったことをたくさん考えさせられた9日間でした。また、今回のプログラムでは、日本とタイの参加者が第一言語ではない英語を使って交流しました。そのため英語がうまく通じず、思うように会話ができない場面もありましたが、その中で、相手を理解しようとする姿勢や、自分の考えを伝えようとする気持ちが大切だと感じました。今回の経験をを通して、国際的な場では自分から主体的に行動することの重要性を学びました。これらの学びを今後の学校生活や将来に活かしていきたいと考えています。

## SSH指定校合同発表会を終えて

3年10組 相馬 希美

東京都内SSH指定校合同発表会で口頭発表をさせていただきました。日本語での発表だったため、内容を正確に伝えることに集中でき、これまで準備してきたことを落ち着いて発表することができたと思います。事前に想定される質問を考え、回答を用意していたこともあり、本番ではあまり緊張せずに臨むことができました。また他の発表を聞く中で、研究の進め方や発表の仕方について多くの気づきを得ることができました。研究自体はすでに一区切りついています。発表後の質疑応答や講評を通して、自分では気づかなかった新たな視点や、貴重な意見を多くいただきました。特に、実験の捉え方や結果の解釈についての指摘は、自分の考えを見直す良い機会になりました。今回の発表会を通して、研究は結果を出して終わりではなく、他者に伝え、意見をもらうことでさらに深まっていくのだと実感しました。この経験は、今後大学で学ぶ上で大きな糧になると感じました。



口頭発表の1枚



王宮の見学にて

## カンボジア研修を通して

2年10組 黒瀨 詩保子

私は、12月21～25日の間、海外研修のためカンボジアを訪れました。この共同研究は、5月からカンボジアの生徒さんとZoomを通して交流を行ってきたものでした。カンボジアの友達とようやく対面で会えることを楽しみにしていた一方、現地の生活に慣れるかなどの不安もありました。しかし、現地に到着すると、カンボジアの方々がとても温かく迎えてくださり、不安や緊張は少しずつ和らいでいきました。また、Zoom上では、自分が伝えたいことを英語でうまく伝えられなかったり、相手が言っていることを聞き取りにくかったりしたので、現地ですまく会話ができるか心配していました。しかし、身振り手振りを用いて会話をしたら、思っていた以上に気持ちを通じ合うことができ、嬉しく感じました。今回の研修はコミュニケーションの向上、カンボジアの方々との交流だけでなく、世界を知る機会となり、多くの経験を通して有意義な時間を過ごすことができました。

## カンボジアで感じたこと

2年10組 川崎 礼雄

私たちはSSHの取り組みで、カンボジアの高校生と共同課題研究を進めています。私たちのグループでは、アリ・ダンゴムシ・ミミズなどの土壌生物を入れた環境と、入れない環境で植物の成長を比較し、土壌生物の多様性が環境に与える影響を検証する実験を行いました。これまでは互いの国で実験を進め、オンラインで情報交換をしてきましたが、今回の研修では初めて現地で直接交流することができました。現地では、食文化の違いを強く感じました。料理は全体的に味が薄めで、スープやお茶は独特な香りのものも多く、食べるのが大変だったものもありました。しかし、食べられないかと思っていたものに挑戦したことで、新たな食の扉が開いたように感じました。また、一緒に参加した日本人の友達もできました。SSHの仲間ということもあり、共通の話題が多く、英語で苦しくなった時には大きな支えになりました。初日はみんな英語に自信がありませんでしたが、最終日には堂々と話せるようになり、自分たちの成長を実感できる充実した海外研修となりました。



共同研究中に1枚

# 中等部作文コンテスト



中等部では高校生の「小論文コンテスト」実施に併せて、作文コンテストが行われました。今回の課題は「あなたが「達成感」を得た経験を具体的に書きなさい。また、その中で重要だと思ったことも述べなさい。」でした。中等部3年での高校推薦入試、高校3年生で東海大学進学希望者全員が受験する「小論文試験」を見据えての練習を毎年しています。各学年のグランプリ・準グランプリ受賞者と、グランプリ作品を紹介します。

**1年** **グランプリ** A組 齊藤 陽南  
**準グランプリ** B組 佐藤 日菜理

**2年** **グランプリ** A組 中村 美緒  
**準グランプリ** B組 鈴木 理桜士

**3年** **グランプリ** A組 高杉 魁  
**準グランプリ** B組 坂本 煌将



左から 坂本君、高杉君、鈴木君、中村さん、佐藤さん、齊藤さん

## 1年グランプリ

1年A組 齊藤 陽南

私が達成感を感じた経験は小1から小5の終わりまで習っていた書道です。書道を習い始めたのはお母さんが連れて行ってくれたことが始まりです。体験で行った時に書道で賞を受賞している人を見ました。私はスポーツが大好きだけれど、日本の文化の面でも賞を取りたいなと思い、習い始めました。また、お母さんも書道を習っていたのでその影響でもあります。小1の頃は簡単な文字を書き、年が上がるにつれて漢字を書いたりもしました。そして小3からは、参加賞ではなく、金賞などいただくことができました。受験のため小5で書道をやめると知った時は悲しかったですが、最後の一年だから「絶対に金賞の上の個人賞を取ってやる」という思いで必死に頑張りました。努力の結果、個人賞をいただくことができました。メダルもたくさんもらいました。書道の先生が「とても上手だったよ」と言ってくれました。その時に私は努力してきてよかったと達成感を感じました。特に段などない書道教室だったけれど、書道はどんな形の文字でも賞をもらえたり、人を、心を、感動させたりすることのできる日本の文化だということが知れました。また、書道は書いている人の心を豊かにし、見ている人の心も豊かにすることができます。そして、焦らずにゆっくりと文字を書くことができます。私は書道を通して何事にも焦らずに取り組むことが重要だと感じました。なので、これからは一歩一歩ゆっくり落ち着いて歩んでいこうと思います。

## 2年グランプリ

2年A組 中村 美緒

私が一番達成感を感じた経験は、去年の部活動の大会です。去年私は、明るく楽しそうな部活動に入りたいと思い、吹奏楽部に入部しました。しかし、部活動は自分が思っている以上に練習がきつく、本当に続けられるか不安になりました。入部して数カ月が経ち、「あと二カ月でコンクールだ」「頑張ろう」と部員一同が心を一つにしてコンクールに挑みました。当時一年生の私は、どのようにしたら良いのか全くわからず、先輩や同学年の友達を見ていました。先輩に聞いてみると「絶対に金賞を取って代表になる」と言っており、その凄まじい意気込みに圧倒されました。残りの二カ月私は、今できることをすべてやろうと決めました。楽器を構えた時、姿勢が悪くならないようにしたり、音符をちゃんと最後まで伸ばし、しっかり息を吸って集中したりとできる限りのことをやりました。コンクール当日、自分が思っている以上に緊張しましたが、自分の中で一番いい演奏ができました。結果は金賞で東京都代表になりました。この時生きてきた中で一番達成感を感じ、喜びと感動でいっぱいでした。この出来事は、一生の宝物です。このコンクールで感じた達成感、次の大会や後輩たちに伝えて、また素晴らしい結果に繋がっていきたくて思いました。そして努力で得る達成感、とても重要だということを知りました。

## 3年グランプリ

3年A組 高杉 魁

私が達成感を実感したことは、漢字検定で2級に合格したことです。そう感じた理由は2つあります。1つ目の理由は、漢字検定を受ける日までの1カ月間、毎日欠かさず勉強をして、少しずつ解ける問題が増えていき、2級の問題の傾向を見つけていくという日々の努力の積み重ねを実感することができました。2つ目の理由は、これまで受けてきた3級や準2級は、1度の試験で合格することができましたが、2級ではあと3点届かず落ちてしまった経験があるので、その悔しい経験を糧に、2度目の試験で合格基準よりも大幅に上の点数で合格した喜びを感じたことです。これらの体験から重要だと思ったことは、自分自身の努力を第三者の視点から見ると、「こんなに頑張る自分は偉い」、「こんな必死な自分はすごい」と、自らを鼓舞することだと思います。私は、試験当日までに何度も「受かるだろうか」、「もっと勉強した方がいいんじゃないか」と不安に思ったことがあります。けれど、「気にしなうしょうがない」、「こんなに勉強したんだから落ちるはずがない」とポジティブに思うようになってから、雑念が消えて安心することができました。私は、感情の揺れに弱いところがあるので、これからも鼓舞し続けていきたいと思っています。

# 2025年度 小論文コンテスト

2025年11月7日(金)、高校3年生で東海大学進学希望者全員が「小論文試験」を受験しました。同じく、高校1・2年生は「小論文コンテスト」という名の下に同一テーマで小論文に挑戦しました。これは1年後、2年後のための予行練習という位置付けで行っているものです。1年生、2年生からそれぞれグランプリと準グランプリが選出され、1月の朝礼で表彰がありました。以下に作品を紹介します。

### 【今年度のテーマ】

「多くの高校で着用される制服は、個人の自由な表現を制限するものと見なされがちです。しかし、制服には、家庭環境による経済的な違いを気にすることなく、生徒全員が公平に学校生活を送れるようにするという側面もあります。制服着用のメリットとデメリットについて、あなたの考えを述べてください。」



左から 小沢君、矢内さん、小竿君、蕪澤さん

## 高校1年生 グランプリ

1年8組 蕪澤 愛奈

私は制服着用賛成だ。なぜなら、私の高校の制服にはたくさんの種類があり、どれを組み合わせても、とてもかわいいと感じるからだ。しかし、制服着用反対の人もいるだろう。そこで、制服着用のメリットとデメリットについて述べようと思う。まずメリットについて述べる。1つは、賛成理由として述べたように、かわいいことである。また、毎日着る私服を選ばなくて良いことも利点である。私は洋服を選ぶことが苦手だ。どうしてもパターン化されてしまい、流行についてもよくわからない。だから、私のような人にとっては制服があることはメリットでしかないのである。

次にデメリットについて述べる。それは自分の着たい服が着られないことである。男だけドスカートをはきたい、女だけドズボンが良い、という人もいないかもしれない。しかし「制服は男はズボン、女はスカート」と多くの人が思っている。制服によって、自分の意見を表現できずにいることは、制服着用のデメリットだと思う。

このようなメリット、デメリットがあると私は考えた。私は制服着用賛成だから普段何気なく着ていた。しかし、自分の意見が周りの偏見や目によって言えなくなっている今、この制服着用のデメリットは日本人だけでなく、世界中の問題だと思う。こうした問題がなくなればジェンダー差別への解決につながるかもしれない。簡単なことではないけれど、今の自分にできることを探してこれからの日々を送りたいと思った。

## 高校1年生 準グランプリ

1年6組 小竿 琥太郎

私は、制服着用賛成という立場から、メリットは、「経済的な違いを気にせず公平に学校生活を送れる」、デメリットは、「個人の自由な表現を制限する」を前提として考えを述べたいと思います。

この問いの大きな問題として、「何に着目するか」なのではないかと考えます。例えば、メリットは、全体の公平を守るための意見、デメリットは、個人の表現を尊重する意見です。つまり、全体に着目するか、個人に着目するかがこの問いの大切にすべき部分だと考えます。では、学校生活という公共の場において、個人の自由な表現を、服で表すことを尊重してもいいのでしょうか。「経済的な違いを気にせず、公平を守る」というメリットを無くしてまで尊重すべきことなのでしょうか。私は、そう思いません。学校という規律を重んじる場所で、全体の公平を無くしてまですることではないと思います。

また、個人の自由な表現は制服でしかできないことでしょうか。髪型や、スクールバッグをデコレーションしたり、工夫すれば表現できることです。大切なのは、個人の自由な表現を制服で表すことなく、工夫をして、どのようにしたら個人の自由を表現できるかを考えさせることではないでしょうか。これらの力は、これからの社会で求められることだと思います。これらのことが、私の制服着用のメリットとデメリットの考えです。

## 高校2年生 グランプリ

2年6組 矢内 栞

学校生活を送る中で、欠かせないものの1つが制服である。制服は毎日着用するものであるため、制服への不満は生徒同士の話題に上がることが多い。高校生の視点から、制服のメリットとデメリットを考える。

まず、制服の一番のメリットは一目でどの学校に通っているかわかる点であると考えられる。高校の外に出れば私たちは「どこかの高校生」であり、常に誰かに見られている。制服を着た状態で良い事でも悪い事でも自分の学校の評判へとつながる。そう考えると、マナーを守り良い行いをしようという意識が生まれ、自分も周囲の人も良い思いをすることができる。また、制服は学生だけが着ることのできる特別なものである。同じ制服を着て学校生活を送ることで帰属意識が深まり、より親密な関係になり学校生活がより充実したものになるだろう。

次に制服のデメリットであるが、動き辛さと防寒対策などのしにくさを挙げたい。通学中や校内で大きな動きをする際に制服は動き辛く、小さなストレスを感じることもある。また、冬場に制服を着ていると寒さを防ぐことが難しい。私服であれば何枚でもできる重ね着が、制服では難しいのである。

このように、制服にはメリットもデメリットもあり、着用するのとしないのではどちらが良いと言い切ることにはできないと結論づけられる。

## 高校2年生 準グランプリ

2年5組 小沢 颯輝

最近の高校では、制服着用が義務づけられていたり、私服が許可されていたりと、さまざまな形があります。私たちの高校は制服着用が義務づけられています。制服着用にはメリット、デメリットの両面があると感じます。

メリットは、高校生ならではの青春をみんなで味わえるところだと考えます。全員で同じ制服を着るというのは、おそらく高校生で最後となります。そのため、制服を着ていられるのはあと1年だと感じることがあります。私が制服で友達と遊んでいるときによく、今高校生らしいことをしていると感じます。それは私服のときは味わえないような感覚です。制服だからこそ、今の時間を大切に、高校生活を送っていこうと思えると考えます。

デメリットは、生徒の個性がつぶれてしまうところだと考えます。服装というのは、1人ひとりの個の表現になるからです。私が修学旅行で友人たちの私服を見たとき、「この子センスいいな」と感じたり、「自分と似ているな」と共感したり、さまざまな刺激を得られました。私服は1人ひとりの個性が表れるため、自分と似ている人がいる場合、話が合いそうだと感じ、コミュニケーションが生まれる材料になると考えます。

制服着用にはメリット、デメリットがありますが、高校で義務づけられている今、制服で最高の思い出を作っていこうと考えます。

# 学年だより 中1



## 校外学習



11月28日に校外学習で両国にある「お江戸両国亭」に行きました。落語や講談、紙切りなど日本の伝統芸能に触れ、楽しむ様子が見られました。

### 黒いライオン

#### A組 加納 聡

私たちは、東京都墨田区にある「お江戸両国亭」というところに落語を聴きに行きました。特に、春風亭昇ちくさんの落語が面白かったです。話の内容は、仕事がない男が日給1万円の仕事があると行ってみたら、黒いライオンの毛皮の中に入り、ライオンの真似をするという仕事だった、という話です。これだけでも面白い展開になりそうですが、最後のいわゆる「落ち」がすごく面白かったです。中学生でもわかりやすく、落語に少し興味が湧きました。

### 落語家を真似て

#### B組 城所 怜空

今回の校外学習で、落語や落語家はどういうものなのかを知りました。私は、みんなの前で落語家さんの真似をしました。やっぱりみんなの前で話すのは少し緊張したけれど、全部言い切ることができました。また落語には、長い歴史があることがこの校外学習でわかりました。前まで、落語はそんなに面白くないと思っていたけれど、こんなに面白い伝統芸能とわかり、もっともっと落語のことを調べてみたいと思います。

### 落語の魅力

#### A組 山本 京二郎

今回、人生で初めて落語を聴きました。落語は、多種多様な役を小道具とともに演じるだけでなく、名前の通り「落ち」がある話をする芸です。私が見た落語家さんたちは、声の使い方を変えただけで、まるで本当に会話をしているかのような自然さで話を進め、最後まできれいに「落ち」へと持っていきました。そのすごさに素直に感心しました。この体験を通して、私も何か一つのことを長く続け、曲げずに取り組み、将来結果を出してみたいと思いました。

### 落語のススメ

#### B組 内山 心晴

私は11月28日に行われた校外学習の落語を鑑賞して、扇子や手ぬぐいなどの小道具や、こんなにも多くの話があることに驚きを隠せませんでした。また落語は昔のもので古く、わかりにくい難しいものだと考えていましたが、話の落ちがわかりやすく、迫力のある声や話し方に引き込まれ、自分もそのお話の中にいるように感じました。落語はシンプルな構成で、複雑な描写もなくわかりやすい伝統芸能なので、皆さんもぜひ落語に触れてみてください。



# 学年だより 中2

## 校外学習



11月28日に校外学習で科学技術館に行きました。さまざまな理科学分野の展示を楽しみながら体験する様子が見られました。

#### A組

### 木村 航大

校外学習で科学技術館に行きました。館内にはさまざまな展示があり、ボタンを押して体験しながら学べるわかりやすいものがありました。その中で特に面白かったのは「建設」に関する展示です。印象的だったのは、液状化現象を再現した装置です。砂と水が混ざった地盤の上に建物の模型を置き、振動を与えると建物沈んでいく仕組みになっていました。東京には埋め立て地など、地盤が弱い場所が多いため、液状化に負けないまちづくりが、これからの東京にとって、とても大切だと感じた体験になりました。

#### B組

### 岡本 英大

私たちは九段下にある科学技術館へ行きました。そこでは技術をテーマに、建造物や車の仕組み、ロボットなど幅広い展示がありました。中でも特に印象に残ったのは、釘を一切使用していない橋です。木組み構造の橋は、木材の形状と組み合わせによって強度を保っていることを学びました。木組み構造は、縄文時代から現代に伝わる文化でもあり、神社や城から家屋や家具などの多くのものに使用されてきました。今回の見学を通して、技術の仕組みを探究することの重要性を改めて認識することができました。

#### A組

### 武山 修士

校外学習で科学技術館に行き、人類がどのような技術を使って発展してきたのかを知ることができました。薬の歴史や地震の影響など、身近なテーマについて簡単な図や体験を通して理解を深められる展示が多く、誰でも楽しく学べる内容でした。今回の校外学習を通して、科学は身近な疑問から発展してきたものだと感じました。これからは日常生活でも「なぜそうなるのか」を意識し、新しい知識を身につけていきたいです。

#### B組

### 細貝 航平

私はこの前の校外学習で、身の回りのものの仕組みについて考え、興味深い体験をすることができました。例えば、シャボン玉を大きく作って、その中に人が入れる体験ができた。自転車をこいで発電し、ライトを光らせたりする仕組みなど、身近なものを使って楽しみながら学ぶことができました。前期で行った日本科学未来館とは違った形で「理科」を学ぶことができ、これからは、身近なものの仕組みや技術など意識して見てみようと思える、良い経験となりました。



# 学年だより 中3

## ～盛り上がったスポーツ大会～

後期中間試験明け、中等部のスポーツ大会が行われました。中等部生活最後の大会ということもあり、全員が勝つために真剣に取り組む姿が見られました。

### 中等部最後のスポーツ大会

#### A組 後藤 奏音

中等部最後のスポーツ大会で、私のクラスは優勝することができました。種目別では、フットサッカーでクラスの人たちと協力しながらプレーし、見ての人たちもたくさん応援をしていました。結果的にフットサッカーでは勝利し、クラス一丸となっている様子がとても良かったです。ドッジボールでは、クラスみんなが勝つために全力で挑みました。残念ながら負けてしまいましたが、A組もB組も楽しそうに取り組んでいて、とても良い雰囲気の中でのプレーでした。また、卓球や競技かるたでも勝っている人が多かったように思います。

3年生にとってこれが中等部最後のスポーツ大会だったので、全員が必死に取り組んでいました。私たちのクラスは、前期スポーツ大会と、体育祭でどちらも負けて悔しい思いをしましたが、最後のスポーツ大会は挽回できてとても嬉しかったです。

### 勝利のために

#### B組 佐藤 朱莉

今回のスポーツ大会は、私たち3年生にとってクラスごとで競い合う最後の行事でした。今後は同じ学年の仲間たちと協力して何かを競うということはもうないので、少し寂しい気持ちになりました。そのため、このスポーツ大会では、クラス全員が「絶対にA組には負けない!」という熱く強い信念を持ち、すべての競技に全力で挑みました。結果としては目標達成とはなりませんでしたが、一人ひとりが全力で取り組んだことは、とても良い思い出になりました。次回は高校生になり、クラス数が増え、スポーツ大会もより激戦になると思います。中等部3年間のスポーツ大会で学んだ「協力して頑張る楽しさ」という想いを忘れず、高校生になって仲間と共に何事にも全力で勝利を目指したいです。中等部1、2年生にも、「協力」というものをたくさん経験してもらい、今後の中等部生活をさらに楽しんでほしいです。



頑張りま〜す! 百人一首は難しい 体力温存中 接戦! 試合観戦中

## ～校外活動～

後期中間試験明け、劇団四季の『ライオンキング』を鑑賞しました。初めてミュージカルを鑑賞した生徒が多く、そのスケールの大きさに大変驚いたようです。

### 初めての劇団四季

#### A組 樺木 あまね

今回の校外活動では、有明四季劇場に行き『ライオンキング』を鑑賞しました。アニメで描かれていた情景や動物が劇ではどのように表現されるのか、とても楽しみにしていました。実際に観てみると、どの場面でも本当にその場所にいるかのような感覚になり、舞台の迫力に圧倒されました。特に、シンバが高く掲げられる場面では、多くの動物が登場し、それぞれの特徴を生かした工夫がされていました。動物たちが人間によって動かされているとは思えないほど、細かく正確に表現されていて驚きました。また、崖から落ちる場面やヌーの群れが走ってくる場面でも、とても迫力があり、思わず声が出そうになるほどでした。

今回初めて劇団四季を鑑賞しましたが、動物の動きや世界観の再現度の高さ、照明や音楽による演出など、驚きと感動の連続でした。この劇場で体感したことを忘れずに、別の舞台を観た時にどのような感覚になるのか、もっと自分の目で確かめたいと思いました。

### 初めてのミュージカル

#### B組 杉浦 大和

私たち3年生は、有明四季劇場で『ライオンキング』を鑑賞しました。私はミュージカルがどのように上演されるのか楽しみました。始めてみると、キャストたちが動物の衣装を着て、まるで本物の動物が動いているような演技をしていて、その再現度の高さにとてもびっくりしました。また、照明や舞台のギミックを使い、臨場感ある景色を再現していて、その舞台装置に圧倒されました。特に、冒頭の太陽が昇るシーンは、本当に太陽が昇っているようで、特

に驚いたのは、次々に場面が切り替わるのに対して、その間隔がとても短かったことです。少し前まで舞台上とても大きな模型があったのに、たった3秒で音もなく消え、別の場面になっていました。その他にも、演者によるアドリブで観客を飽きさせないように工夫していました。私は初めてミュージカルを鑑賞したのですが、実際に観ると予想を超えた独創的な舞台で興味が湧きました。他の舞台も観てみたいと思いました。



劇場の前で 開演前のひととき 初めてのミュージカルにドキドキ

# 学年だより 高1

## 高校現代文明論「現代文明の諸問題」学年発表会

東海大学品川キャンパスの大講義室で、「現代文明の諸問題」学年発表会が行われました。どのクラスの代表生徒も、自ら決めたテーマをもとに優れたプレゼンテーションを披露しました。また、質疑の時間には多くの生徒が手を挙げて、積極的に質問する姿も印象的でした。

### 1組 朱厚霖・廣瀬駿・溝上蒼大

#### AIの使い方の課題

今回の発表で、AIの使い方の課題について調べ発表したことで、AIはとても便利な技術である一方、使い方を間違えると大きな問題につながることを実感しました。特に、レポートや課題をそのままAIに任せてしまうことや、誤った情報を正しいと信じてしまう危険性、個人情報の管理の難しさが印象に残りました。また、AIはあくまで補助的な存在であり、人間の判断や考えが重要だとわかりました。今回の発表を通して、AIとうまく向き合い、責任を持って活用していきたいと感じました。

### 2組 勝野瑛太・鶴田湊士

#### 現場から聞いた臓器提供 ～必要な人たちの声～

今回の発表では、所沢のわかさクリニックの医師7名に臓器移植についてうかがい、現場の自然な声を知ることができました。多くの医師が臓器移植を「命をつなぐ大切な医療」と評価する一方、ドナーを提供する方の家族や、医療関係者の負担などが大きいことも知れました。また、臓器提供は血液型や相性、緊急度などの基準を公平に分配されることも学びました。そして、提供者が少ない現状に対しては、教育やドナーカードの普及など社会全体で理解を深める必要性が挙げられました。医療の現場から聞いた声は、臓器移植が多

### 3組 宮本大輝・李佳旭

#### 互いの認識

今回の発表を通して、私たちは世界だけでなく日本で現在起こっている問題についても、十分な知識を持っていなかったことに気づきました。また、発表の準備や他クラスの発表を聞く中で、国際的な出来事に対する関心が高まり、このような発表の機会をいただけたことはとても貴重な経験だったと感じています。私たちのグループでは「国際」というテーマについて考えましたが、国際問題は一つの答えで説明できるものではなく、背景や立場によって見え方が大きく変わることを学びました。今後は情報をうのみせず、多様な視点を意識しながら、自分なりに考え続けていきたいです。

### 4組 阿部来斗・石川隆之助

#### 京都議定書とパリ協定

今回の現代文明論の発表に向けて、私たちは環境についてさまざまなことを調べてきました。そして、発表を通して学んだことや感じたことを伝えられたのではないかと思います。環境問題は世界中の問題であることや、それを解決しようにも複雑な問題が絡み合い簡単にはいかないとすることは、非常に悔しさを感じました。これからはこの現代文明論で学んだことを活かし、自分が世界に貢献できることが少しでもあるのなら、進んで取り組めるようにしたいと思います。

### 5組 石原遙人・鶴巻理菜

優秀賞

#### 児童労働の現状 ジェンダー平等についての人権問題

調査によって、アフリカなどは児童労働のほか女子の早すぎる結婚というジェンダー問題も同時に抱えていることがわかりました。そのような地域において収入が少ない理由の一つは、作った製品を先進国が安く買うからであり、国連の目標や取り組みがあってもなお変わらない現実を、重く受け止める必要はないと感じました。その上で、例えばフェアトレードのチョコレートを買うようにするなど、自分たちが実践できることは何かを考えました。スライドを作るとき、最初は文章が多く見にくくなってしまったので、一番重要な部分だけを入れるようにしました。質疑応答ではスムーズに回答できなかったため、今後はアドリブで答える能力も磨きたいと感じました。

### 6組 佐伯步乃果・染谷一寿

#### 国際協力活動

今回の発表を通してわかったことは、自分自身が世界だけでなく日本で現在起こっている問題について知識があまりなかったことです。他のクラスの発表を聞いて、世界的な問題になっていることにも興味を持つことができたので、このような発表する機会をいただき、とても良い経験になりました。私たちのグループは国際というテーマについて考えました。国際問題の中で、私が特に大きな問題だと思うのは戦争です。ニュースを見てもまだ続いている国があるという事実にも、もし自分の国でこのようなことが起きたらと思うことも怖いです。もっと戦争について調べ、今後出てくるであろう課題なども知り、自分にできることはやっていきたいです。

### 7組 新井統二朗・佐久間真央

最優秀賞

#### 高齢者が過ごしやすい街はどっち?

今回の高校現代文明論の発表を通して、多くのことを学びました。私たちのテーマは「福祉」で、大田区と板橋区、どちらの街がよりバリアフリーに配慮されているかを比較しました。このテーマで学んだことは、バリアフリーの整備が街づくりに非常に重要であること、バリアフリーが進んでいる街はすべての人にとって暮らしやすい街になるということ、そして、そのためには地域の人々の意識や協力も大切だということでした。これからは福祉について考え、行動していくことが私たちの課題だということも、この調査を通して改めて感じました。

### 8組 井野場煌人・酒井耀太

#### 平和問題～これからの世界に向けて～

今回の活動から発表を通して、世界で起こっている物事に興味を持つことが重要だと思いました。今回、私たちは「広島・長崎の原爆」について調べましたが、過去に起きた出来事を忘れてはいけないと同時に、繰り返さないことが重要だと考えました。今回は過去の出来事を調べましたが、現在世界で起こっていることに目を向けることも大切です。そのために、日頃からニュースや新聞を見ることで世界の物事に対する興味を深めることで、一人ひとりがオリジナルの意見を持つことが、我々にとって大切だと感じる機会となりました。

### 9組 片野心寧・桑原田悠希・牧大起

#### 飢餓・貧困問題 ～お腹も笑顔もいっぱい～

今回の発表で、自分自身が身の回りのことに対して、どれだけ興味を持っていないかがはっきりとわかりました。決まり文句のようですが、多方向に視野を広げていく必要性を改めて実感する結果となりました。私たちの班では、「環境」についてフォーカスしましたが、まだまだ取り上げられていないところもたくさんあるので、これからもさまざまなことに探究心を抱いていくように励みます。そして、このようなプレゼンテーションが、自分を含め、誰かの学びのきっかけになるようでしたら幸いです。

### 10組 山田歩佳

生徒審査員賞

#### 燃えないために

今回の調査を通して、炎上がいかに身近な存在であるかを知ることができました。また、本やインターネットで調べてだけでなく、インタビューを行った展示会に参加したりと、実際に行動して得た情報が、発表内容の信憑性を高める上でどれほど貴重であるかを実感しました。スライド作成では、先生やクラスメイトからアドバイスをもらい、見やすいスライド作りのポイントを学ぶことができました。一方で、発表では緊張で声の抑揚やジェスチャーを付けられず、単調で飽きやすい発表になってしまったなど、反省点も多々あります。今後、どのように改善できるかを考え、次回に生かしていきたいと思っています。

# 学年だより 高2

## 新部長紹介

昨年の10月号に続き、代が替わり気持ち新たに活動を始めた部活動の新部長に「意気込みやチームの目標」を聞きました。



### 剣道部

漆原 悠

今年の剣道部は、全国大会出場を目標に日々稽古に取り組んでいます。今年のチームは、まだ伸びしろがたくさんあります。お互いに声を掛け合いながら、改善すべき点にも気づけるようになってきました。その上で一人ひとりが高い意識を持って日々の稽古に取り組んでいます。たくさんやるべきことがありますが、今までとは違う、今まで成し遂げられなかったことができるチームだと思います。これから新チームが始まりますが、悔いの残らないようにこのチームと一日一日を大切に頑張ります。

### 男子バレーボール部

淵上 瑛崇

新部長になりました淵上瑛崇です。私たち男子バレーボール部は、1年生9人、2年生13人で毎年1月に開催される高校バレーボールの日本一を決める大会「全日本バレーボール高等学校選手権大会」(春高バレー) 出場を目標に活動しています。そのために目標に向かってお互いに励まし合い、指摘し合える関係を築けるよう練習しています。去年はあと一戦勝つことができたら春高バレー出場のところ、悔しい思いをしたので、今年こそ勝って本戦に進みます。応援をよろしくをお願いします。

### 陸上競技部

田口 侑磨

私たち陸上競技部は、インターハイ出場を目標に日々練習に励んでいます。短距離、長距離、跳躍、投てきなど種目ごとに専門的な練習を行い、基礎から丁寧に力を伸ばしています。仲間と切磋琢磨しながら記録更新を目指し、厳しい練習の中にも達成感と楽しさがあります。顧問の先生と先輩が丁寧に指導してくださるので、チーム一丸で大会に挑むことができます。体力づくりやメンタル面も強化し、きつい練習でも部活動の仲間と共に乗り越えています。仲間との絆を深め、自分の限界に挑戦していきます。

### 柔道部

薄井 崇介

私の理想とする柔道部は、日々の稽古を大切に、互いに切磋琢磨しながら全国の舞台を本気で目指すチームです。勝つために何が必要かを常に考え、技の精度向上や体づくりに妥協せず取り組みます。部全体で目標を共有し、厳しい練習の中でも声を掛け合い、仲間と支え合いながら成長できる環境を築きたいです。一人ひとりが自分の役割に責任を持ち、チームとして力を最大限に発揮できる集団を目指します。また、礼節や感謝、困難に立ち向かう覚悟といった柔道の精神も大切に、部長として姿勢と結果でチームを導いていきます。

### 女子バレーボール部

平林 怜

女子バレーボール部の目標は「一笑懸命」です。そこで私たちは「笑顔と自信を持って戦えるチーム」を目指しています。勝つことだけを目的にするのではなく、日々の練習や一つ一つのプレーを大切に積み重ね、その努力を自信につなげていきたいです。そしてその自信をプレーで表現し、応援してもらえるようなチームにしたいです。苦しい場面でも笑顔を忘れず、声を掛け合い、互いを支え合える雰囲気を作ることが強いチームにつながると思っています。全員が自分の役割に責任を持ち、最後までやり切ったと胸を張って言えるよう、部長として先頭に立って行動していきます。

### サッカー部

橘 琉斗

昨年、先輩方に連れて行ってもらった西が丘で味わった悔しさは、今も忘れていません。今年は先輩たちが立つことのできなかつた決勝の舞台、そして全国大会出場を目標に全力で戦います。  
○高輪台の歴史を塗り替えられるよう、部員一人ひとりが自分の役割に責任を持ち、どこよりもまとまりのある「組織力No.1」のチームを目指します。サッカーだけでなく、普段の生活から、誰からも応援してもらえる集団を作り、この目標を達成します。一戦一戦、チーム全員で闘って、泥臭く勝ちにいきたいと思っています。

### ダンス部

丸林 由依

今年のダンス部の目標は「躍覇」です。「躍覇」は個々の力を最大限に発揮しながら、1つの目標に向かって全員で突き進み、皆さんの心を動かせるようなパフォーマンスを通して勝利を掴み取る、という強い決意を表しています。この目標を達成するために、お互いが支え合いながら全員が同じ目標に向かって日々練習に励み、どんな時でも妥協せず挑戦し続け、チーム一丸となって努力してまいります。私は部長として全員が力を発揮できる環境を支え続けながら、自分自身も誰よりも努力をし、みんなと共に成長していきます。

# 学年だより 高3

## 学校生活を振り返るアンケート

高校生活も残すところあと1カ月。振り返れば、学校行事や部活動で過ごした日々には笑顔と挑戦が詰まっています。そんな3年間を振り返るアンケートを実施しました。

思い出に残っている行事は？



1位

研修旅行

私にとって初めての体験が本当に多かったからです。話したことがない友達と、行ったことがない場所に行き、親元を離れて自分で生活するという、世界の広さ、自立する大変さ、冒険心が芽生える経験でした。一緒に班になった仲間は、今でも仲が良くて一生の友達になると思います。そんな友達に出会えたこの経験は、きっと何年経っても忘れないと思います。(1組 木阪 風南)

2位

建学祭

普段話さないクラスメイトとも、どうしたらお客さんに喜んでもらえるのか、どうやったら自分たちも楽しくできるのかを話し合ったりできた。少しだけでも絆が深まった気がするから。(9組 天下谷 ちひろ)

フライドポテト

3位

スポーツ大会

みんなで体育の時からイメージをしていたので、それを最大限発揮することができたので良かった。(3組 川地 瑛太)  
スポーツを通じて、さらにクラスの仲が深まったり、いろんな人とコミュニケーションが取れたから。(8組 壽田 遼輔)

高校生活を振り返って

▶一番は部活動で、インターハイ予選と春高予選どちらもベスト4になることができたのが一番の喜びで、高校というレベルの高い世界でここまで行けたことに驚いている。最後の最後で全国大会に行けなかったが、みんなまでここまでやれたことに感動し、悔みながらも引退することができた。(2組 男子バレーボール部 西川 大晴)

▶高輪台での高校生活は、私にとって多くの学びと成長をする時間でした。勉強や部活動では思うようにいかないことはたくさんありましたが、仲間と励まし合いながら最後まで努力することができました。また、先生たちがいつも支えてくれたおかげで、勉強や学校生活を前向きに取り組むことができました。3年間を通して、人とのつながりや感謝の気持ちの大切さを実感できた高校生活だったと思います。(4組 テニス部 矢崎 叶萌)

▶部活動での仲間やクラスメイトに恵まれ最高の学校生活だったので、関わってくれた人に感謝したい。(5組 サッカー部 大場 琉生)

▶毎日お弁当を作ってくれたり、送り迎えをしてくれたお母さんお父さんには感謝しかない。(6組 成沢 結尊)

▶部活動が生活の大半だったが、たくさん演奏会をさせてもらったり、遠征に行かせてもらったり、全国大会も何回も出させてもらった。両親の協力なしには続けられなかったのが本当に感謝。(7組 吹奏楽部 大宮 太陽)

▶SSHクラスの生徒としてなかなか体験できない場や経験をさせていただけたことは、これから先の進路を考える上でも良いものだったと思います。(10組 鈴木 颯)

# お知らせ

## 基礎力判定テスト 高1:3月2日(月)／高2:3月3日(火)

試験科目 ● 国語 ● 数学 ● 英語 ● 理科 ● 地理歴史・公民

4月9日(木)実施予定の学園基礎学力定着度試験のプレテストです。  
希望する進路の実現に向けて、しっかりと準備をしておいてください。

## スポーツ大会〈本校アリーナ〉 高2:3月2日(月)／高1:3月3日(火)

学年最後のイベント、さらにクラスの団結を深めましょう!

## 中1 Tokyo Sightseeing Tour 2月5日(木)

海外英語研修旅行  
中3 〈オーストラリア〉8泊10日  
2月16日(月)～2月25日(水)



### 行事予定

※予定が変更になる場合があります。

## February 2月

## March 3月

- 1日(日) 中等部第1回入学試験
- 2日(月) 中等部入学試験合否発表(web) 火曜の授業日
- 3日(火) 中等部第2回入学試験(生徒自宅学習日)
- マナー講座(中3)
- 4日(水) 中等部入学試験合否発表(web)
- 5日(木) 中等部第3回入学試験(生徒自宅学習日)
- Tokyo Sightseeing Tour(中1)
- 6日(金) 中等部入学試験合否発表(web) 答案返却(中3)
- 10日(火) 高校一般入学試験(生徒自宅学習日)
- 11日(水) 建国記念の日
- 高校一般入学試験合否発表(web)
- 13日(金) 朝礼・短縮授業
- 15日(日) 新入生制服採寸・教材販売(中等部・高校推薦・付属)
- 16日(月) 海外英語研修旅行(中3:オーストラリア ～25日)
- 17日(火) 校医相談日⑩
- 18日(水) 専門医によるカウンセリング⑧
- 21日(土) 生徒自宅学習日
- 23日(月) 天皇誕生日
- 新入生・保護者登校日(中等部)
- 新入生制服採寸・教材販売(高校一般)
- 24日(火) 後期期末試験(中1・2:～26日、高1・2:～27日)
- 26日(木) 生徒休業日(中3:～27日)
- 28日(土) 登校日(高3)

- 2日(月) スポーツ大会(高2)
- 基礎力判定テスト(高1)
- 3日(火) スポーツ大会(高1)
- 基礎力判定テスト(高2)
- 6日(金) 海外研修報告会(中等部1～3限)
- 7日(土) 卒業式予行(高3)
- 3年生を送る会 高輪会入会式
- 2限から特別授業
- 卒業式準備(PM)
- 8日(日) 第17回卒業証書授与式(中3)
- 第77回卒業証書授与式(高3)
- 9日(月) 振替休日(3/8分)
- 10日(火) 答案返却(5・6限カット)
- 新3学年教科書販売
- 12日(木) 生徒自宅学習日
- 13日(金) 成績不振者指導(生徒自宅学習日)
- 16日(月) 新2学年教科書販売
- 19日(木) 修了式・離任式
- 20日(金) 春分の日
- 22日(日) クラス分け試験(高校)
- 25日(水) 振替休日(3/22分)

### 編集後記

昨今の物価上昇に伴い、漢検(日本漢字能力検定)の受検料が値上げされることが小誌3ページで紹介されています。英検(実用英語技能検定)で測ることのできる英語4技能と比べ、単なる雑学にすぎないと見下されがちな漢字能力ですが、「朝」に「天子が政治を行うところ」「朝廷」という語がありますよね」という意味があることや「旅」の本義が「いくさ」(「旅団」は連隊より大きな部隊編成のこと)であることを知っていれば、きっと話し言葉も豊かになるはずですよ。次回実施は6月12日の予定です。ぜひ挑戦してみてくださいね。(の)